

中学年

小学校中学年におけるキャリア発達課題を達成していくためには、「友達と協力して活動する中で関わりを深める」「自分のよさを発揮し、役割を自覚する」という視点が大切である。ここでは、「四つの能力」ごとに、実践するに当たってのポイントをまとめてみる。

【人間関係形成・社会形成能力】

低学年段階で個の学校生活への適応を果たした児童は、集団で物事に取り組もうとする姿が見られる。そのような姿を生かしながら、友達づくりや集団の結束づくりを大事にしたい。

中学年では、当番活動や清掃、異学年集団活動など、学校生活の様々な場面において、自分たちできまりをつくって守る姿を育てる必要がある。きまりを守ることで、周囲から認められ、集団の結束力も高まる。

また、児童会活動やクラブ活動、学校行事、地域の人々との交流などを通して協力し合える人間関係を築く態度を育む必要がある。



《活動のねらい(身に付けさせたい力)》

- 友達のよいところを認め励まし合う。
- 互いの役割や役割分担の必要性が分かる。
- 自分の生活を支えている人に感謝する。
- 他者とのコミュニケーションの機会を増やし、感謝の心を育む。
(3年国語「役わりに応じて話し合い、意見をまとめよう」)
(4年図画工作「絵本をつくろう」)

【自己理解・自己管理能力】

中学年の時期は、日常生活において、日直や係、朝の会や帰りの会などの中で、自分の仕事に対して責任を感じ、最後までやり遂げる姿勢を培ったり、自分のやりたいことやよいと思うことなどを考えて進んで取り組む姿勢を育んだりすることが大切である。

特別活動では、自発的な活動への欲求の高まりなどを積極的に生かし、特に学級活動では、話し合い活動を通して、集団思考の後に意思決定をすることにより、集団における自分の存在を認識し、自分のよさや集団における役割を自覚させたい。



《活動のねらい(身に付けさせたい力)》

- 自分のよいところを見付ける。
- 働くことの楽しさが分かる。
- 係や当番活動に積極的に関わる。
- してはいけないことが分かり、自制する。
- 自分の生活を見直し、よりよく生きることについて考える。
(3年学級活動「これまでの力をつなげて、目標を決めよう」)
(4年体育「体の発育・発達」)

【課題対応能力】

児童が毎日の生活の中で直面する様々な課題を解決するためには、これまでの経験を生かしたり、他者と話し合ったりしながら、よりよい解決方法を見いだすことが大切である。

また、話し合いにおいては、自他の見方・考え方のよさに気付かせながらよりよい考え方を見いだすことができるようにすることが必要である。

また、仲間と協力して課題が解決できたという経験は、みんなで活動することの意義やよさを実感する瞬間であり、中学年の児童のキャリア発達を促す上で重要である。



《活動のねらい(身に付けさせたい力)》

- 自分の意見や気持ちを分かりやすく表現する。
- 友達の気持ちや考えを理解しようとする
- 友達と協力して学習や活動に取り組む。
(3・4年学級活動「クラスみんなが楽しい係を考えよう」)
- みんなで話し合い、よりよい解決方法を見いだす。(3年算数「あまりのあるわり算」)

【キャリアプランニング能力】

中学年の時期は、学ぶことの意義と自己実現とのつながりを理解することがなかなか難しい。そのため、学習することの楽しさや価値に気づき、学習の見通しや振り返りの大切さを理解できるようにするなど、学ぶことが将来の自己実現にどうつながっていくのかについて考えさせ、主体的に学習することができるようにすることが大切である。

そのためには、自分のよいところに気づき、将来の夢や希望をもてるようにする指導はもちろん、各教科等の学習が日常生活や将来の生き方と関連していることに気付く活動を積極的に設ける必要がある。

特に「キャリア・パスポート」は、これまで自分どのような力が付いたのかを見直したり、将来の自分を具体的にイメージできたりするなどの効果が期待できる。

また、地域の人々の暮らしや生き方を学ぶ機会や地域の人々との協働的な体験活動も取り入れながら、色々な職業や生き方があることや互いの役割、役割分担の必要性も理解できるようにする。



《活動のねらい(身に付けさせたい力)》

- 自分の仕事に対して責任を感じ、最後までやり通そうとする。
- 計画づくりの必要性に気づき、作業の手順が分かる。
- 将来の夢や希望をもつ。
(4年学級活動「なりたい自分をめざして、家庭学習の計画を立てよう」)
- 身近な人々に感謝の気持ちを持ち、今後の生き方について考える。
(3年総合的な学習の時間「地域社会を支える様々な職業や機関と関わり、今後の生き方について考える」)

《国語科》 役割を果たしながら話し合い、グループで合意形成をはかる

単元名 「役わりに応じて話し合い、意見をまとめよう」

ねらい

話し合いの役割を決め、進め方を確かめる。

- ◎「話すこと・聞くこと」において、目的や進め方を確認し、司会などの役割を果たしながら話し合い、互いの意見の共通点や相違点に着目して、考えをまとめることができる。
- 「話すこと・聞くこと」において、目的を意識して、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を比較したり分類したりして、伝え合うために必要な事柄を選ぶことができる。

本単元とキャリア教育

本実践は、「1年生に読み聞かせをする本を決めよう」という目的意識や相手意識がもちやすく、具体的な配慮といった、合意形成に至るための観点が分かりやすい話題を設定し、グループでの合意形成を目指した話し合いについて学習する。

人間と人間との関係の中で、互いの立場や考えを尊重し、言語を通して適切に表現したり、正確に理解したりするという「伝え合う力」を身に付けることで、特別活動において、よりよい生活や人間関係を築いたり、集団としての意見をまとめたりするための話し合い活動を実践で活用することができるようになる。自分の意見や気持ちを分かりやすく表現し、友達の気持ちや考えを理解しようとすることで、コミュニケーション能力を高めることができる。

全体構想

主な学習活動	
1	学習課題を設定し、学習計画を立てる。 ・「役割に応じて話し合い、1年生に読み聞かせをする絵本を決めよう。」という学習のめあてを確かめ、学習の進め方を確かめる。
2	話し合いの目的と決めることを確かめ、自分の意見をもつ。
3	班の中で役割を決め、手本となる話し合いのCDや映像を見て、話し合いの進め方を確かめる。
4	班ごとに話し合いの計画をたてる。
5	班ごとに話し合う。(本時) ・目的や進め方を確認し、それぞれの役割を果たしながら、互いの意見の共通点や相違点に着目して意見をまとめる。 ・考えを出し合う話し合い→考えをまとめる話し合い
6	班ごとに話し合いの結果や様子を報告し、読み聞かせの練習をする。
7	1年生に読み聞かせに行く。
8	単元の学習を振り返る。

← 《学級活動(1)》
学級会
係活動



本時のねらい

- 目的や進め方を確認し、それぞれの役割を果たしながら、互いの意見の共通点や相違点に着目して意見をまとめることができる。

実践のポイント

発言に対して、反応しながら聞けるように普段から心掛けるように指導する。

対話は、情報や気持ちを伝え合うことで、知識や経験を共有し、お互いの関係性を深めるものである。学校生活の中で、児童同士の対話を意識的に取り入れることで、児童の対話力が向上し、クラス内の人間関係を豊かなものにする。授業の中で、ペアやグループで話し合いをさせることで学びも深くなる。また、発言の仕方だけでなく、聞いている人は「なるほど。」「いいね。」などの相づちを打ちながら聞けるようにするなど、友達の発言に対しては、必ず自分の考えを述べる習慣が付くと話し合いが更に深まる。

展開 (5/8)

過程	学習活動と内容	指導上の配慮事項と評価 配慮事項 (○) キャリア教育の視点から見た重要なこと (◎) 評価 (☆)
導入	1 前時の学習を振り返る。	○ 本時までに確かめてきた、話し合いの目的や役割、進め方などをノート等で確認させる。 ○ 司会の言葉を確認する。
	2 本時の学習のめあてを確かめる。	
役わりに応じて話し合い、グループの考え方をまとめよう。		
展開	3 班で話し合う。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">T：班での話し合いを始めましょう。まずは、10分間でそれぞれの考えと理由を出し合います。次の20分で、読み聞かせする本を一冊に決めましょう。</div> 〈話し合いの手順〉 ①あいさつ ②役割の確認 ③議案・提案理由 ④目的の確認 ⑤話し合い ⑥話し合いをまとめる。	○ 話し合いの目的と進め方を確かめる。 【目的】「一年生が本をすきになってくれるような、読み聞かせをする。」 【条件】「五分で読める本から目的に合うものをえらぶ。」 ○ 友達の意見と同じところと違うところをはっきりさせ、分からないことは質問する。 ○ 最後に、決まったことを確認する。 ◎ グループでの合意形成を目指した話し合いについて学習し、司会などの役割を果たしながら話し合い、互いの共通点や相違点に着目して考えをまとめる力を身に付ける。 ☆ 自分の役割や進め方を意識しながら話し合い、共通点や相違点に着目して考えをまとめている。
	4 話し合いの仕方によかったところやうまくいかなかったところを伝え合う。	
まとめ	5 本時の学習を振り返る。	○ 振り返りを数人に発表させる。その時には、手を止め、顔を見て聞くようにする。

《算数科》 既習事項の活用と他者との対話を通して、課題を解決する力を育てる

単元名 あまりのあるわり算

ねらい

- 既習を活用して、除数と商が共に1位数である除法の計算が確実にできるようにする。
- 割り切れない場合の除法の計算の意味や計算の仕方等についての理解を深めることができるようにする。

本単元とキャリア教育

この事例は、児童の実態として「学びが繋がらず」「あきらめが早い」という課題を想定している。私たちが毎日の生活の中で直面する様々な課題を解決するためには、これまでの経験を生かしたり他者と話し合ったりしながら、よりよい解決方法を見いだすことが大切である。そこで、本実践は、「課題対応能力」の育成に焦点化し、乗法や除法に関する既習事項を生かしながら粘り強く考えることを通して、課題が解決できたという経験を積むことができるようにすることを旨とする。あわせて、話し合いにおいては、自他の考えのよさに気付かせながら、よりよい考えを見いだすことができるようにする。仲間と協力して課題が解決できたという経験は、みんなで学習することの意義やよさを実感する瞬間であり、中学年児童のキャリア発達を促す上でも大切なものとなる。

全体構想

時数	主な学習活動
2	○ 余りがある場合でも除法を用いてよいことを考える。
1	○ 余りがある場合の除法の式の表し方等を知る。
1	○ 等分除の場面についても除法が適用できるかを考える。
1	○ 答えの確かめ方を知る。
2 (本時)	○ 日常生活の場面に当てはめて、商と余りについて考える。
3	○ 学習内容を適用して除法の問題を考えたり解決し合ったりする。

道徳科

「希望と勇気、努力と強い意志」

自分でやろうと決めた目標に向かって、強い意志をもち、粘り強くやり抜く態度を育てる。

本時のねらい

- 既習事項が本時の課題解決につながっていることを理解している。
- 課題解決に向けて他者と協力して粘り強く取り組むことができる。

実践のポイント

「キャリア・パスポート」や児童ノート等を活用して、学びの価値を深める言葉をかける。

「苦手な算数をあきらめないでがんばる」という目標を立てた児童が、図や言葉を使って自分の考えを書きながら、課題解決のために真剣に考えていたら、「やり遂げようがんばっているね。」と言葉をかけたいものである。授業終末の振り返りでノートに「最初は5箱だと思っていたけれど、友達のを聞いたら6箱だと分かった。」と書いた児童の姿を見取ったら、「友達の考えのいいところを見付けられるところは、あなたのよさですね。」と言葉をかけたい。児童一人一人への丁寧な言葉かけを通して、児童が学びの価値に気付くことができるようにしたい。

展開 (7/10)

過程	学習活動と内容	指導上の配慮事項と評価 配慮事項 (○) キャリア教育の視点から見た重要なこと (◎) 評価 (☆)
導入	<p>1 問題場面を知る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> ケーキが23こあります。1箱に4このケーキを入れていきます。全部のケーキを入れるには、箱は、何箱あればよいですか。 </div> <p>式 $23 \div 4 = 5 \dots 3$ 答え 5箱…。 6箱…。</p> <p>2 本時の課題を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;"> 答えはどうなるのだろうか。 </div>	<p>○ 問題場面から、包含除であることを確認する。</p> <p>○ 求めるものはケーキを入れる箱の数であることを確認し、余りに着目することで課題解決への見通しをもつことができるようにする。</p>
展開	<p>3 課題を解決する。</p> <p>(1) 自分で考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図や半具体物等を使って考える。 ・自分の考えを式や言葉、図で表す。 <p>(2) ペアや全体で話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・商が5だから答えは5箱になると思う。 ・5箱だと3こ余ってしまうから、6箱必要になると思う。 	<p>○ 考えの根拠を図や半具体物等を使って考えさせることを通して、筋道立てて考えることができるようにする。</p> <p>◎ 既習を生かして粘り強く考えている姿を見取り、言葉をかけたり、称賛したりする。</p> <p>◎ ペアや全体での話し合いを通して、自他の考えのよさに気付いたり、商と余りの関係についての理解を深めたりできるようにする。</p>
まとめ	<p>4 本時の学習を振り返る。</p> <p>(1) まとめる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> 答えは、あまりの分も考えて、商に1をたす。 </div> <p>(2) 適用問題に取り組む。 (3) 振り返りを書く。</p>	<p>○ 本時の振り返りをノートに書くことを通して、既習事項を生かして考え、話し合っ解決できたことが実感できるようにする。</p> <p>◎ 本時の学びと今後の生活とのつながりについて問いかけることで、学びを日常生活に生かそうとする意欲を高める。</p> <p>☆ 商に1加える場合について、図や半具体物等を使って考えている。</p>

《学級活動 (3)》 なりたい自分になるための目標を意思決定する

題材「〇年生になって」(第3学年)(これまでの力をつなげて、目標を決めよう)

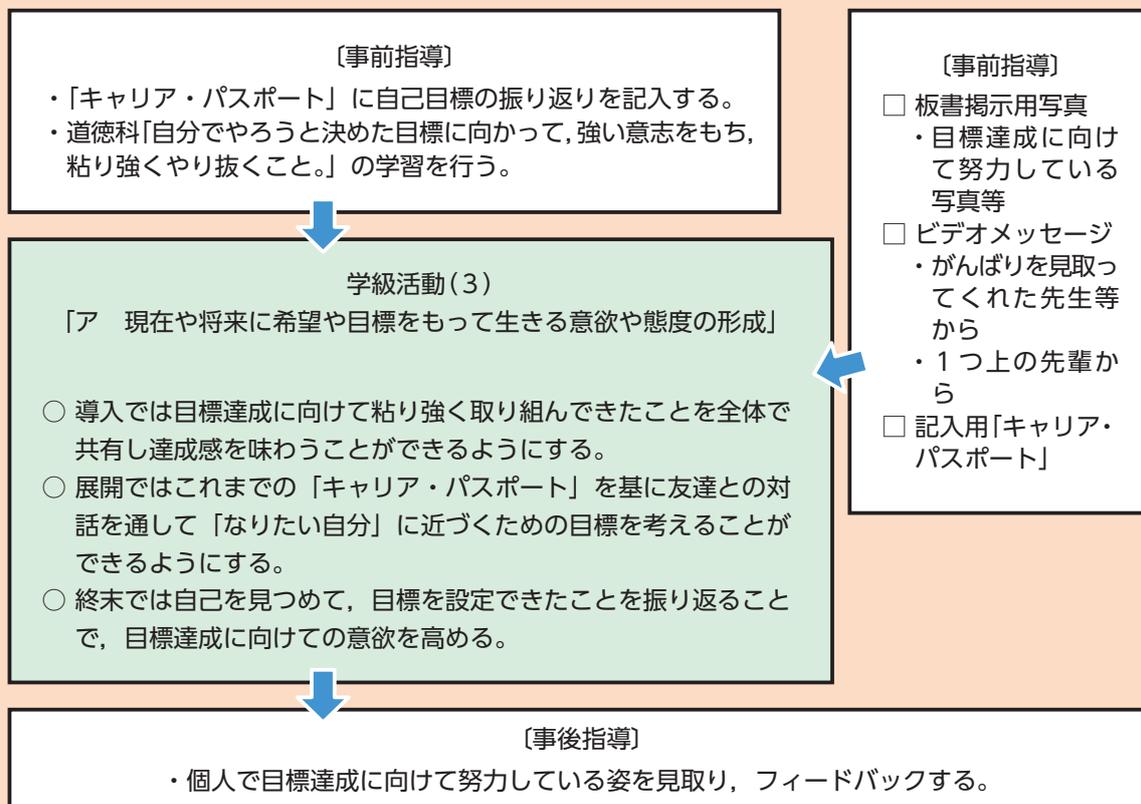
ねらい

目標達成に向けた姿や成功体験を全体で共有したり、なりたい自分に近づくために必要な力を話し合ったりすることで、新たな希望や目標をもって実践できるようにする。

本題材とキャリア教育

本実践は、学級活動の内容(3)「ア 現在や将来に希望や目標をもって生きる意欲や態度の形成」に当たる。児童がなりたい自分を見つけて目標を立てることを目指す。そのためには、前学期を振り返り、個人または協働で目標達成に向けて努力してきた姿を全体で共有する活動を通して、高まった力を十分に実感できるようにすることが大切である。日頃から、教師の多面的な児童理解により見取った個人や集団のよさをその場でまたは短学活等でフィードバックし、自他のよさを目を向ける温かな関係性を構築していきたい。あわせて、児童一人一人が「こんな〇〇になりたいな」、「〇〇ができるようになりたいな」等、なりたい自分への具体的なイメージをもって目標が設定できるようにする。そのために、これまで記録してきた「キャリア・パスポート」を見返しながら友達との対話を通して、自己を見つめて必要な力を見極め、目標を立てて実践することができるようにする。

全体構想



本時のねらい

- これまでの成長を振り返るとともに友達との交流を通して、次の目標を設定することができる。

実践のポイント

ロールモデルを提示して、近い将来への見通しがもてるようにする。

3年生の児童にとって近い将来である4年生の児童からのメッセージは、なりたい自分を具体的にイメージするためのロールモデルとなる。4年生の児童には事前に話してほしい内容を伝えておき、ねらいからずれないようにすることが必要である。そのために本時では、「4年生の学習と行事」、「どのように目標を達成させてきたか」について話し合う。児童自らが4年生にインタビューする活動を取り入れてもよいだろう。

「キャリア・パスポート」の活用や友達との対話を通して、次の成長につながる目標が設定できるようにする。

本時では、目標を設定する際に、以下の2つのことを大切にしている。

1つ目は、累積している「キャリア・パスポート」を机に置いて、これまでどのような力が自分に身に付いたのかを見返すことを通して、なりたい自分を具体的にイメージできるようにすることである。

2つ目は、児童同士の関係性を生かして、自分が立てた目標について友達から「がんばってね」と認められたり、アドバイスをもらったりする活動を設けることで、よりよい目標が設定できるようにするとともに、目標達成に向けての意欲を高めることである。児童は、日常生活の中で協力する営みを通して、自分のモチベーションを高めたり自他のよさに気付いたりしながら、自己理解を深めているので、この関係性を生かした活動を工夫する。

展開

過程	学習活動と内容	指導上の配慮事項と評価 配慮事項 (○) キャリア教育の視点から見た重要なこと (◎) 評価 (☆)
導入	1 これまでの目標を振り返り、次の成長について話し合い、問題意識を高める。	○ これまでの学習や学校行事等で目標達成に向けて粘り強く努力してきた姿を写真や動画で提示し称賛するとともに個々と集団の成長に気付くことができるようにする。 ○ 相互評価により達成感を十分に味わうことができるようにする。
展開	2 なりたい自分に近づくためには、どのような目標がよいかを考える。 3 なりたい自分に近づくための目標の実現のための方法について、グループや全体で話し合う。	◎ 事前に録画した4年生の児童からのメッセージ映像を見ることで、近い将来を見通して目標が設定できるようにする。 ◎ グループや全体での話し合いを通して、互いに励まし合ったりアドバイスしたりすることで、目標を決めることができるようにする。 
T：3年生の学習が4年生の学習にもつながっていくこと、目標を達成させるための解決方法など参考になりましたね。○月には運動会もありますし、○月には学習発表会もありますね。成功させるためにどんな力が必要ですか。「キャリア・パスポート」を見返しながら、これまで高まった力をつなげて次の目標を考えましょう。		
まとめ	4 なりたい自分に近づくための目標や方法を決めて、「キャリア・パスポート」に書く。	☆ なりたい自分に近づくための目標や方法を決めている。 T：自分を見つめて、次のなりたい自分に近づくための目標を考えることができましたね。友達と話し合っ、自分の目標を見つめ直し、いい目標を立てそれに向けた方法を決めることができましたね。これから、実践するためにみんなががんばっていきましょう。

《体育》 自分らしく生きること自信をもつことができる

単元名 体の発育・発達

ねらい

体の発育・発達に関する課題を見付け、よりよい解決に向けて考える活動を通して、体が年齢に伴って変化すること、体の発育・発達には個人差があること、思春期になると体に変化が起こり、異性への関心も芽生えること、体の発育・発達には適切な運動、食事、休養及び睡眠が必要であることを理解できるようにする。

本単元とキャリア教育

本実践は、これから二次性徴を迎え、心身ともに変化していく時期の児童が、体と心の成長を肯定的に受けとめ、自分の生活を見直し、よりよく育つためにこれからどうすべきかを考える学習である。また、この時期は、思春期の体の変化が現れていない児童の方が多いので、これから起こる心や体の変化に対して、不安を抱かせないように指導し、これからの成長への展望をもつようにする。

日々の生活が自分の将来と関わっていることに気付き、未来の自分のために、今の生活を見直し、「自分らしさ」を大切にしながら、よりよく生活しようという意欲をもつことが大切になる。

また、二分の一成入式と関連させて学習することで、自分の成長の様子をより深く、知ることができる。この学習をした後には、道徳の時間で自分のよさを伸ばす主題をもつ題材で学習することで、体の成長の違いだけでなく、自分の個性を大切にしていける心情を育てたい。

全体構想

3年生の保健「けんこうな生活」

時数	主な学習活動
1 (本時)	(1)育ちゆくわたしたちの体 ・体は年齢に伴って変化すること、また、体の発育・発達には、個人差があることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。
2	(2)思春期に現れる変化 ・体は、思春期になると次第に大人の体に近づき、体つきが変わってくることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ・思春期になると、初経、精通などが起こること、また、異性への関心が芽生えることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。
1	(3)よりよく成長するための生活 ・体をよりよく発育・発達させるには、適切な運動、食事、休養および睡眠が必要であることを理解する。

道徳科

「節度、節制」

自分でできることは自分でやり、安全に気を付け、よく考えて行動し、節度のある生活をする。

「個性の伸長」

自分の特徴に気付き、長所を伸ばすこと。

本時のねらい

- 体は年齢に伴って変化すること、また、体の発育・発達には、個人差があることを理解している。

実践のポイント

背の高さや体格も個性の一つとして捉えさせることによって、自分を大切にする気持ちを育てる。

この時期の児童は体の発育・発達に個人差や性差が現れる時期でもある。客観的に物事を捉えられるようになっており、今までの成長を素直に喜ぶ反面、友達と比較することで、現在の自分の体やこれから起こる変化について不安を感じている児童もいる。指導に当たっては、自分の体の発育を肯定的に受け止め、背の高さや体格も個性の一つとして捉えることによって、自分を大切にする気持ちを育てよう。

展開 (1/4)

過程	学習活動と内容	指導上の配慮事項と評価 <small>配慮事項 (○) キャリア教育の視点から見た重要なこと (◎) 評価 (☆)</small>
導入	1 教科書の赤ちゃんの実物大の手形や靴の写真と、自分の手や靴の大きさを比べる。 2 本時のめあてを確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 私たちの体は、どのように成長してきたのでしょうか。また、これからどのように成長していくのでしょうか。 </div>	○ 用意できるのであれば、赤ちゃんの頃の服や靴などを実際に見せれば、成長をより感じることができる。 ○ 赤ちゃんの頃に比べて成長していること、自分だけでなく、他の人も一人一人成長していることに気付くようにする。
展開	3 入学してから4年生までの自分の身長伸びを確かめる。 4 6人の6歳～15歳までの身長伸び方を比較し、共通点や個人差について考える。 ・まず、個人でワークシートに気付いたことを記入し、その後、グループで交流する。 5 10年間で身長以外に成長したことを考えさせる。 ・赤ちゃんの時は、歩けなかったけど、今は速く走れるようになった。 6 体の発育から未来の自分をイメージし、自分にどのような言葉をかけるか考える。	○ 1年生から4年生のときまでの身体測定の結果を用意し、身長伸びを紙テープで視覚的に確かめる。 ◎ 発育の個人差は、一人一人みんな自分らしく成長していることを強調し、次の活動につなげていく。 ○ 体は年齢とともに、発育し変化することを整理する。 ○ 男女6人の身長伸びを表した絵を基に、違いや共通点などについて考え、身長などの体の発育には、男女差や個人差があることを見付けるようにする。 ☆ 体は年齢に伴って変化すること、また、体の発育・発達には、個人差があることを言ったり、書いたりしている。 (発言・ワークシート) ◎ 自分の発育をみつめて、身長だけでなく、心や体のいろいろなところが成長していることに気付くようにし、自己肯定感や自尊感情を育てるようにする。
まとめ	7 今日の学習で分かったこと・気付いたことを振り返る。 8 振り返ったことを交流する。	○ 学習をまとめて、毎日の生活や、これからの学習に生かせることを考える。

《図画工作科》造形活動におけるコミュニケーションを通した「人間関係形成・社会形成能力」の育成

題材名 絵本をつくろう

ねらい

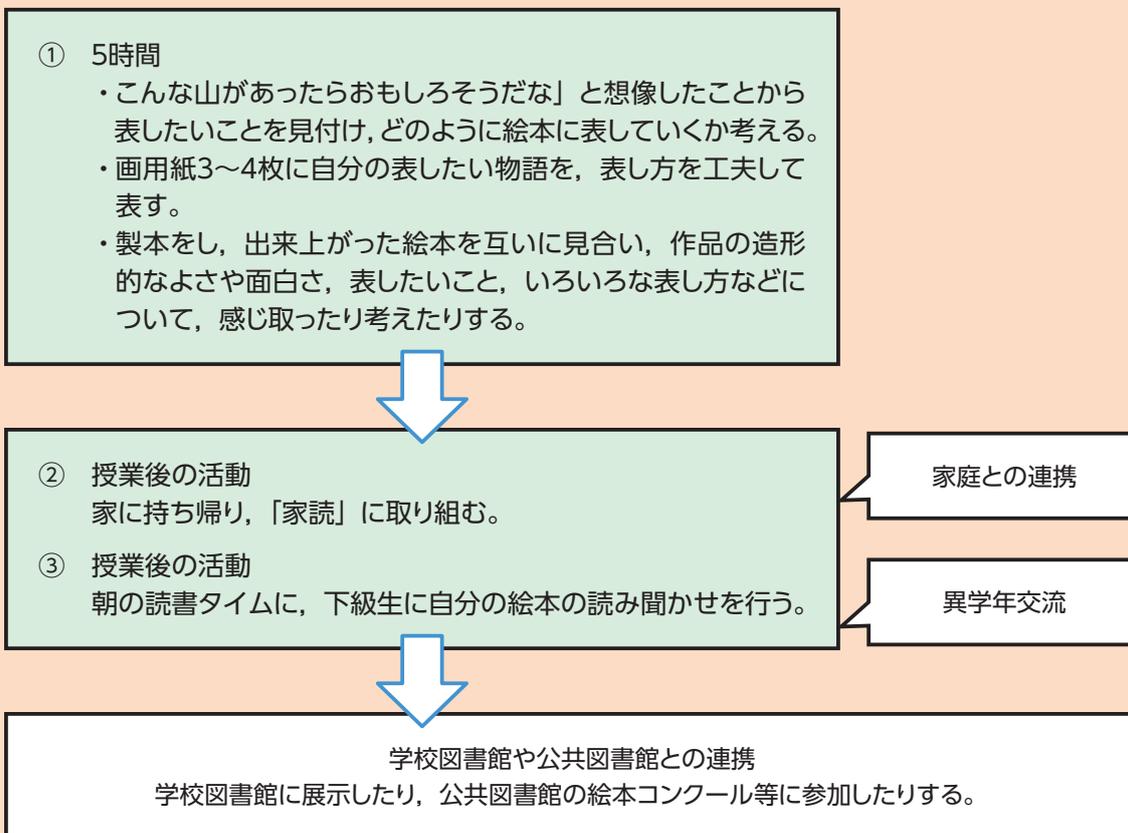
- 想像したことから表したいことを見付け、紙類や絵の具についての経験を生かし、手や体全体を十分に働かせ、表し方を工夫して表すとともに、作品の造形的なよさや面白さ、表したいこと、いろいろな表し方などについて、感じ取ったり考えたりし、進んで山を舞台にした絵本を表現したり鑑賞したりする活動に取り組む。

本題材とキャリア教育

本題材では、世界で1冊のオリジナル絵本を表す。物語づくりは、国語の学習とも関連付けた。自分の表したい思いを大切に、表し方を工夫して絵や文をかいていく。出来上がった絵本は、友達はもちろん、地域の方々、下級生、家族の方にも見ていただく機会を設定し、他者とのコミュニケーションの機会を増やした。このような活動を通して、自分や友達のよさや個性などを認め、尊重し合えるようにしていく。出来上がった絵本を家に持ち帰り、「家読」に取り組むことは、親子の温かな触れ合いともなる。

全体構想

他者とのコミュニケーションの機会を増やし、感謝の心を育む。



本時のねらい

- 出来上がった絵本を地域の方々にも見ていただく機会を設定し、他者とのコミュニケーションの機会を増やし、自分や友達のよさや個性などを認め、尊重し合えるようにする。

実践のポイント

この授業を通して育てたい力を保護者や地域の方にも伝える。

本時の授業の目標は、出来上がった絵本を互いに見合い、作品の造形的なよさや面白さ、表したいこと、いろいろな表し方などについて、感じ取ったり考えたりし、見方や感じ方を広げることである。この目標を協力者となる保護者や地域の方にも事前に伝え、理解してもらうことが大切である。例えば、形や色のよさや面白さ、児童の表したかったこと、表し方の工夫などの視点をもって、対話してもらうことが考えられる。自分のよさや個性が大切にされていることを感じた児童は、友達のよさや個性も大切にできるようになり、温かなコミュニケーションが生まれる。また、よさや個性には違いがあり、どれも大切にされるものだということを学んでいく。



展開

過程	学習活動と内容	指導上の配慮事項と評価 配慮事項 (○) キャリア教育の視点から見た重要なこと (◎) 評価 (☆)
導入	1 ボランティアの方々を迎える。 2 本時の目標を確かめる。	◎ 一緒に活動してくれるボランティアの方々を紹介する。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> 自分や友達の絵本の表し方のよさを伝え合い、見方や感じ方を広げよう </div>		
展開	3 自分の絵本を紹介したり、友達の絵本を見たりする。	○ 交流を通して作品の形や色などのよさやおもしろさ、表したかったこと、表し方の工夫などを感じ取ったり、考えたりできるようにする。 ◎ 友達やボランティアの方たちに、自分の思いや表し方の工夫を進んで伝えたり、感想を聞いたりしてコミュニケーションする姿を捉え、称賛する。 ☆ 作品の形や色などのよさやおもしろさ、表したかったこと、表し方の工夫などを感じ取ったり、考えたりし、自分の見方や感じ方を広げている。
まとめ	4 本時の学習を振り返る。	○ 交流を通して気付いた、自分や友達の作品のよさについて振り返り、絵本を表したり、伝えたりすることができてよかったという思いをもてるようにする。 ○ 一緒に活動してくれたボランティアの方々に感謝の気持ちを伝え、人間関係を築く態度を育めるようにする。



《学級活動 (3)》 自己マネジメント力向上による家庭学習の充実

題材 なりたい自分をめざして、家庭学習の計画を立てよう

ねらい

自己マネジメント力の向上を通して、家庭学習の充実を図る。

本題材とキャリア教育

本実践は、学級活動の内容(3)「ウ 主体的な学習態度の形成と学校図書館等の活用」に当たる。児童が目標達成に向けて自分に合った家庭学習の計画を立てることを目指す。自分の力で取り組む家庭学習だからこそ、家庭学習の意義を理解し、「自分を知る－計画を立てる－実践する－振り返る－見直す」というサイクルを通して、自己マネジメント力を高めることが求められる。本実践では、なりたい自分を意識できるようにするとともに、家庭学習の取り組み方を振り返って自己の課題に気付いたり解決方法を考えたりすることを大切にしている。自己マネジメント力を高めるためのサイクルを、家庭学習はもちろん、学校での学習、当番活動、各学校行事等、様々な場面で活用することを通して、なりたい自分に近づくことができるようにする。

全体構想

〔事前指導〕

- ・毎日記録しているスケジュール計画表を基に、家庭学習に関するアンケートを記入する。
- ・道徳科「自分でやろうと決めた目標に向かって、強い意志をもち粘り強くやり抜くこと。」の学習。

〔事前準備〕

- 板書掲示用写真
 - ・がんばっている児童のスケジュール計画表^{*}を拡大したもの
 - ・がんばっている児童の自主学習ノートを拡大したもの
- ビデオメッセージ
 - ・1つ上の先輩や地域の方から家庭学習を続けるよさ等について
- 翌週用のスケジュール計画表

*毎日記録する学習や生活の振り返りができるワークシートのこと

学級活動(3)

「ウ 主体的な学習態度の形成と学校図書館等の活用」

- 導入では、アンケート結果やスケジュール計画表から自分の家庭学習への取組方を見つめる。
- 展開では、がんばっている児童の姿、5年生や地域の方からのメッセージを基に、他者との対話を通して、なりたい自分に近づくための家庭学習の計画を考えることができるようにする。あわせて、図書館の活用についても触れる。
- 終末では、翌週の家庭学習の計画を立てることができたことを振り返ることで、今後の実践意欲につなげる。

〔事後指導〕

- ・努力している姿を互いに認め合ったり、計画を見直したりする機会を定期的に設ける。
- ・児童の自主学習ノート等を掲示し、成長を実感させるとともに意欲の持続につなげる。

本時のねらい

- 家庭学習の意義を理解したり、自己を振り返ったりすることを通して、なりたい自分に近づくための家庭学習の計画を立てることができる。

実践のポイント

自己マネジメント力を育てるために、内発的な動機付けを大切にする。

メディアに触れる機会が多い児童には、自分の学習や生活を調整したり、改善したりする力、つまり自己マネジメント力が求められる。自己マネジメント力を育てるために、本時では児童の内発的な動機づけを大切にしている。児童が今の学びと自己の将来とのつながりを実感できるようにするとともに、努力し続けることの積み重ねこそが、将来役に立つ力になることに気付くことができるようにして、家庭学習への意欲を高める。

展開

過程	学習活動と内容	指導上の配慮事項と評価 配慮事項 (○) キャリア教育の視点から見た重要なこと (◎) 評価 (☆)
導入	1 アンケート結果やこれまでのスケジュール計画表(学習や生活の振り返りができるシート)から、頑張ってきたことに気付くとともに、問題意識をもつ。	○ 今学んでいる学習が将来につながっていることを全体で共有することで、家庭学習の大切さに気付くことができるようにする。
展開	2 なりたい自分に近づくための家庭学習について考える。 3 これまでの自分を振り返り、今後の家庭学習の取り組み方について考えたことをペアや全体で話し、アドバイスし合う。	◎ 意欲的に家庭学習に取り組む児童のスケジュール計画表や自主学習ノート等を提示したり、事前に録画した5年生児童と地域の方からの励ましのメッセージ映像を流したりすることで、学習時間や学習内容、学習に取り組む態度等について見直すことができるようにする。その際、図書を活用して学習している姿を取り上げることで学校図書館等の積極的活用につなげる。 ◎ 「継続は力なり」の意味を問いかけ、目標達成のために努力し続けることは自分を成長させるとともに、将来与えられた役割を果たす力や困難を乗り越える力につながることを伝える。 ○ 話し合いを通して、課題解決につながる前向きなアドバイスをし合うことで家庭学習に取り組む意欲を高める。
まとめ	4 本時を振り返り、来週の家庭学習のめあてと計画をスケジュール計画表に書く。	☆ なりたい自分に近づくための家庭学習のめあてや計画を決めている。 T：なりたい自分に近づくための家庭学習のめあてと計画を立てることができました。友達とアドバイスし合い、やる気も高まりましたね。今日から実行です。これからも「振り返る—課題を解決するための計画を立てる—実行する」を大切に、がんばりましょう。

《学級活動（1）》係活動に積極的に取り組み、働くことの楽しさに気付く

議題 クラスみんなが楽しい係を考えよう

ねらい

- 1学期の係活動を振り返り、より楽しい学級にするための係活動を主体的に考え、その活動内容を計画し、実行することができる。
- 協力して係活動をするを通して、学級みんなのために活動する喜びを感じることができる。

本議題とキャリア教育

係活動は、学校生活の充実と向上のために、自ら進んで児童が創意工夫し、自発的、自治的に取り組むものであり、自分の得意なことなどを生かして活動できるものである。自分の得意を生かして、自分のことだけではなく、集団のために活動し認められることで、働く喜びを知るとともに、自己理解が深まり、自分に自信をもつことができる。

また、仲間と支え合い、相談しながら、楽しい学校生活をつくろうと協同的に活動する中で、友達よさに気づき、互いに認め合うこともできる。また、活動の内容を話し合う中で、自分の考えを伝えたり、友達の意見に耳をかたむけ、気持ちや考えを理解した上で、時には、折り合いもつけながら、話し合っ活動内容を決定したり、目的に向かって計画を立てて実行する力を育てる。そうした活動を通して児童相互の結びつきを深めることもできる。

全体構想

- ① 1学期の係活動を振り返り、残したい係、新しくつくりたい係を見つける。
- ② 学級をもっと楽しくするための係をつくろうという思いや願いを共有化できるように、学級全体で、1学期の係活動の振り返りを交流する。
- ③ 司会グループを中心に、話し合いの計画をたてる。
- ④ 自分たちの学級に必要な係とその理由について一人一人が考える。(学級会ノート)

〈学級会〉
どのような係が必要か、学級に必要な係について話し合う。(本時)

- ① 新しいメンバーで係の活動内容を決める。
- ② 学級全体に各係の活動内容を報告し、係活動を行う。

〈日常的な活動〉

- 係活動
- 当番活動
 - ・日直活動
 - ・清掃活動
 - ・給食当番活動等
- 学級活動
 - (1) ア 学級や学校における生活上の諸問題の解決
イ 学級内の組織づくりや役割の自覚
 - (2) イ よりよい人間関係の形成
 - (3) 一人一人のキャリア形成と自己実現
イ 社会参画意識の醸成や働くことの意義の理解

〈道徳科〉

- A[個性の伸長]
自分の特徴に気づき、長所を伸ばすこと。
- B[友情、信頼]
友達と互いに理解し、信頼し、助け合うこと。
- B[相互理解、寛容]
自分の考えや意見を相手に伝えるとともに、相手のことを理解し、自分と異なる意見も大切にすること。
- C[勤労、公共の精神]**
働くことの大切さを知り、進んでみんなのために働くこと。
- C[よりよい学校生活、集団生活の充実]
先生や学校の人々を敬愛し、みんなで協力し合って楽しい学級や学校をつくること。

本時のねらい

- 1学期の係活動を振り返り、自分の考えを話したり、友達の考えを聞いたりしながら、学級がもっと楽しくなる係活動を考えることができる。

実践のポイント

係活動と当番活動の違いをしっかりと確認する。

係活動と当番活動の違いをしっかりと指導する必要がある。窓係や電気係など、創意工夫できない係は、当番活動として設定し、係活動とは分けて活動するようにする。

係活動の特徴としては、児童が必要とする係であること、継続的に活動できること、成果が学級に反映されること、複数で協力し合って活動できること、創意工夫が生かせることなどがある。

学級会で話し合い、自分たちの学級が楽しく豊かになるような係を決める。

係活動が活発に行われるために、教師の適切な支援をする。

係活動は児童の自発的、自治的な活動であるが、児童任せにするのではなく、教師の意図的な関わりが必要である。係によっては、活動が停滞したり、意欲が低下したりすることも考えられる。熱心に活動している係を紹介するなど、教師の適度な声かけにより、児童の活動意欲は高まる。

係活動を活発に行うためには、仲間、時間、空間の三つの間が必要である。朝の会や終わりの会で、係からの連絡や発表を行うなどして時間を確保し、昼休みを計画的に活用したり、活動計画を立てたりして、見通しをもって活動することができるようにするとよいだろう。また、定期的に、活動の振り返りを行い、係活動発表会など、各係の活動をお互いに認め合う場をつくりたい。

展開

学習活動と内容	指導上の配慮事項と評価 配慮事項 (○) キャリア教育の視点から見た重要なこと (◎) 評価 (☆)
1 提案理由、話し合いのめあて、話し合うことを確認する。 <div style="border: 1px solid black; background-color: #ffffcc; padding: 5px; text-align: center;"> 議題 学級をもっと楽しくするための係を決めよう。 </div>	○ 学級会の進め方の手引きを用意する。司会グループと事前に話し合いの進め方について打合せを行う。
2 話し合う。 話し合うこと①「必要な係を考えよう」 どのような係が考えられるか考えを出す。 学級に必要な係は何かという視点で意見を募り、係を絞ったり、合体させたりする。 ・質疑応答を通して、出された意見の内容の共通点や相違点を確認したり、理解したりする。その際、出された意見を分類・整理し、話し合いのめあてにより近いものや条件にあてはまるかという視点で、合意形成を図る。 話し合うこと②「なりたい係を決めよう」	○ 時間短縮のため、学級会ノートを見て、短冊に予め書いておいてもよい。 ○ 話し合いに向けての視点をもたせる。 ・係活動は学級全体が、楽しく、かしこく、仲よくなるためのものであることを確認する。 ◎ 多数決ではなく、合意形成を図って決定する。 ☆ 今までの係活動の振り返りを踏まえ、必要な係を考えることができる。
3 話し合いで決まったことを確認し、本時の話し合いを振り返る。 4 教師による振り返り。	○ 話し合い活動での、児童のよさを褒めるとともに、これからの係活動の励みになるような助言を行う。